

第32回あすなろ夢建築

大阪府公共建築設計コンクール

入選作品集

主催 大阪府 公益社団法人大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社
後援 大阪府教育委員会 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
協賛 一般社団法人日本建築協会
一般社団法人大阪府建築士事務所協会
公益社団法人日本建築家協会 近畿支部 大阪地域会
一般財団法人大阪建築防災センター
一般財団法人日本建築総合試験所
一般社団法人公共建築協会
公益社団法人日本建築積算協会 近畿支部
公益財団法人建築技術教育普及センター 近畿支部

「あすなろ夢建築」

大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室計画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
TEL:06-6941-0351 (代表)

テーマ 花と緑のあふれる都会のオアシス

課題 大阪府営住之江公園の休憩所

コンクール概要・総評

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、府内の建築を学ぶ高等学校生、専修学校生などから提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ 花と緑のあふれる都会のオアシス

課題 大阪府営住之江公園の休憩所

主な設計条件

- 【所在地】 大阪市住之江区南加賀谷1丁目
- 【計画地面積】 約200㎡
- 【床面積】 25㎡～80㎡程度
- 【構造】 原則木造（鉄骨造、鉄筋コンクリート造も可）
- 【規模】 平屋建て（屋根あり、地下なし、屋上利用なし）

作品受付期間

令和5年1月6日（木）～1月13日（金）

応募状況

- 【応募校数】 13校
- 【応募作品数】 178点（うち 第1部44点、第2部134点）
- 【応募人数】 203人（うち 第1部48点、第2部155点）

【第1部】（計5校）

大阪府立工芸高等学校	大阪府立都島工業高等学校
堺市立堺高等学校	大阪府立今宮工科高等学校
大阪府立西野田工科高等学校	

【第2部】（計8校）

日本理工情報専門学校	近畿職業能力開発大学校
修成建設専門学校	大阪建設専門学校
大阪公立大学工業高等専門学校	大阪工業技術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門学校	中央工学校OSAKA

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ（共同制作）での応募とします。

応募区分

- 【第1部】 工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
- 【第2部】 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、高等職業技術専門校に在籍する学生

作品展示

詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。



審査委員

【審査委員長】

岩田 章吾
（武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教員）

【審査委員】

下村 泰彦
（大阪公立大学大学院現代システム科学研究科教員）

角田 暁治
（京都工芸繊維大学デザイン・建築学課程教授）

堀部 直子
（株式会社Horibe Associates）

酒井 良和
（大阪府都市整備部公園課長）

植野 甚一
（大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長）

総評

本年度も多数の魅力的な応募をいただきました。高校生の部である第1部と専修生等の部である第2部のそれぞれから多数の応募があったことは喜ばしい限りです。本コンクールの価値が広く知られた証であると思います。

今年は、公園内の花と緑のスクエアの一角に休憩所の提案を求めるもので、休憩所としての機能とともに、スクエアとの関係をどうとらえるかも重要な点でした。公園に新たに建てられる施設として、公園を訪れる人に喜ばれる、利用されるための魅力の有無が評価のポイントとなりました。スクエアの一角という条件が、少し課題を難しくしていたように思いますが、数多くの応募案にユニークな形態や仕組みの提案があり、とても喜ばしく思います。入選した作品は、いずれも、形態やその仕組みにおいて従来とは異なる新しい公園の休憩所の可能性を垣間見せてくれるものでした。

当設計競技は、実施を前提としています。そのため、コストや安全性、維持管理の容易さなどが審査の要因となります。しかし、同時にそのことが、応募者の自由でのびやかな発想を妨げることがあってはならないとも考えています。新しい価値を生み出す自由で豊かな発想を、いかに 実現可能なものとするか、その点にしっかりと取り組んでほしいと思います。難しいコンペですが、皆さんの一層の頑張りに期待します。

最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

入選作品の講評

（グランプリ） 「上下上下下」

シンプルであるが6つの様々な大きさ、高さの箱を並べることで、様々な形で休憩可能な場を作り出している。立ち寄ってみたいと思わせる、形態的ユニークさと、多様な利用の仕方を想像させる場の作りこみを、管理上の懸念の少ない形で実現している点を評価しグランプリとした。

（優秀作品賞） 「けやきをつなぐ」

ピッチを変えながら連続する木の柱と屋根はシンプルで非常に美しい。また、場所性に応じたアクティビティを提案している点についても評価できるが、庭園外方向に設置しているベンチが暗い雰囲気になってしまうなど、中央のステージやスクエアとの関連性の薄さが気になった。

（佳作） 「光と風の交流所」

木材を使いながら庭園デザインにあった洋風のイメージが感じられ、周辺の風景を見せる休憩施設として、落ち着いた佇まいが 提案されている点が評価できる。形態も洗練されており、作者の力量の高さをうかがえるが、建築としてのまとまりが強い分、中央のステージやスクエアとの関連が薄くなってしまっている。

（佳作） 「重なり、繋がる」

場所のイメージを反映した曲線のベンチとランダムに配された屋根による構成が楽しい案である。計画地だけでなく公園全体を設計の対象としている視点が素晴らしい。しかし、雨天の際に屋根の雨水が他の屋根の下に流れ込むといった機能的な懸念点があった。

（奨励賞） 「人と光の集う場所」

プレゼンテーション能力が高く、ひときわ目を引く美しい行灯のような作品。夜間利用をメインに押し出し、美しい夜景をしっかりと提案できており、遠方からも行ってみたいと思わせる力がある。一方で、昼間の見え方や木の成長が考慮されていない点が気になった。

（準グランプリ） 「流れる人々のオアシス」

園内での人の動きをよく考え、それをこの場所に滞在するベンチとして形態化した案であり、シンプルで美しく、風や日差しについても考慮し計画している点も評価できる。しかし、大きな壁面が背後に死角を生み出す可能性がある点が懸念点となり、グランプリには至らなかった。

（優秀作品賞） 「さしこむ光」

サイズが異なる正方形の板を積層させ、ベンチなどの家具から建築まで断続的に展開し、変化にとんだ空間を生み出しているところが良い。造形性や、場に与える影響など評価できる点が多いが耐候性に関して懸念があり、また、もう少し造形と構造を関連させてほしかった。

（佳作） 「Growing up」

ハニカム構造が斬新で面白く、筒状の形態を利用したイベントでの使い方も提案しており、多様なシチュエーションにより異なる風景が見れる点が魅力的であるが、日常的な使われ方にももう少し提案があればよかった。また、提案の壁で屋根を支えることができるのか不安な面がある。

（奨励賞） 「appointment」

2棟に分割された休憩施設に挟まれた空間において樹木を植栽することにより、両側のケヤキと相まって、一体的なイメージを形成している。現状のアーチを引き継ぐようなデザインであるが、足元のギリシャ建築の柱を思わせる支柱のデザインに疑問が残った。

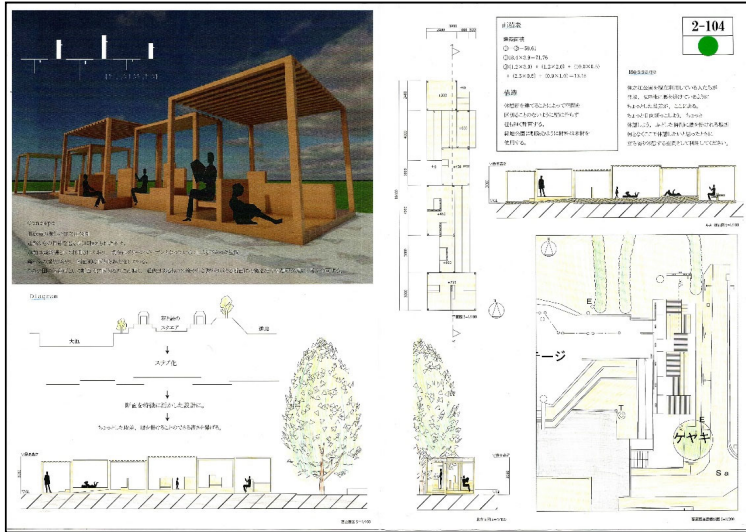
（奨励賞） 「LEAVES」

様々なシーンの利用形態を考え、3種類の休憩所が織りなす空間が面白く、木の葉をモチーフにして作り出した形態の造形センスを評価した。管理上の懸念として、公共の公園では死角がないことが求められており、その点を解決できればより良い作品に仕上がったと思われる。

グランプリ・準グランプリ・優秀作品賞

グランプリ 「下上下上下上」

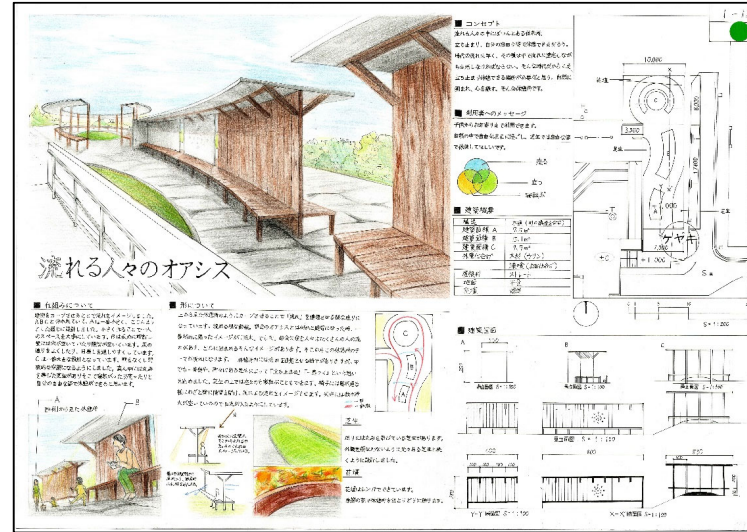
かじた みずき
梶田 瑞稀 大阪工業技術専門学校



高低差の激しい住之江公園、道路からの視線を遮るよう
に植えられた木々。
以前は競輪場として利用されて
おり、現在はグリーン
ガーデンとなっているG L
より下がった空間。
幾つもの起伏があり、断面的
な区切り方をしている。
この公園の休憩所として
断面的に区切るのでは無く、
起伏はあるものの緩やかな
繋がりがあがる断面に特徴を
持つ休憩所が良いと考え
企画する。

準グランプリ 「流れる人々のオアシス」

いのうえ いいな
井上 仁唯奈 大阪府立工芸高等学校



流れる人々の中にぼつん
とある休憩所。
立ち止まり、自分の自由
な姿で休憩できるだろう。
時代の流れは速く、その
様なかで流れに適応しな
がら生活しなければなら
ない。そんな時代だから
こそ立ち止まり休憩でき
る場所が必要だと思う。
自然に囲まれ、心を癒す。
そんな休憩所です。

優秀作品賞 「けやきをつなぐ」

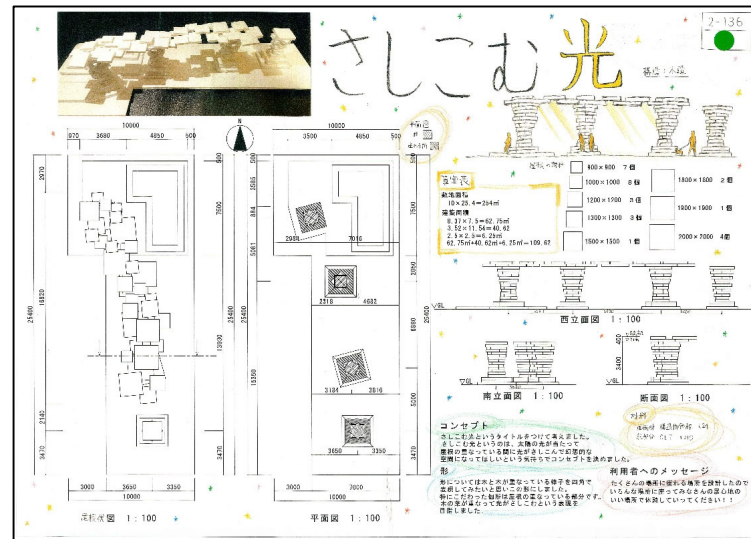
さかみち ゆき
坂道 幸 日本理工情報専門学校



フラワーベースやパーゴラを撤去する中、あえて存置する
ケヤキと生垣を活かした休憩所を作りたいと考え、必然的
にケヤキとケヤキをつなぐように道を構成した。
直線で整然さを、曲線で自然との融合を表現し、レンガ
ブロック敷きと芝生の地面を違和感なく繋がるようにした。
既存のものを活かす形とすることでコスト面でも抑えられる。
休憩といっても軽く腰掛けるものからゆったり長い時
間を過ごすものまで様々あるので、一つの休憩所で様々な
楽しみ方ができるように、北側のケヤキに向かうにつれて
段階的に視界を狭くして、変化をつけた。
春夏秋冬の色の变化、昼と夜の光と影の変化も楽しんでも
らいたい。

優秀作品賞 「さしこむ光」

こうさい ななこ
香西 菜々子 中央工学校OSAKA



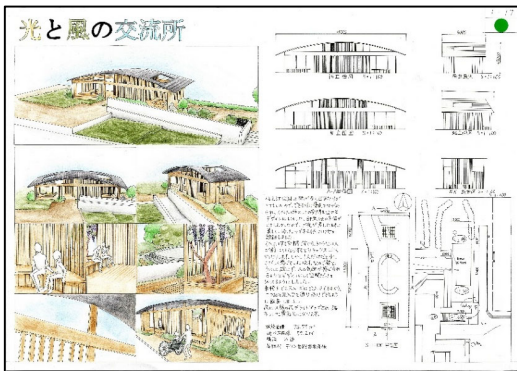
さしこむ光というのは、
太陽の光が当たって屋根
の重なっている間に光が
さしこむことで、幻想的
な空間になってほしいと
いう思いでコンセプトを
決めました。木の葉が重
なっている様子を四角で
表現してみたいと思いこ
の形になりました。特に
こだわった箇所は屋根の
重なっている部分です。
木の葉が重なって光がさ
しこむという表現を目指
しました。

佳作・奨励賞

佳作 「光と風の交流所」

かわせ りか
河瀬 りか

大阪府立工芸高等学校



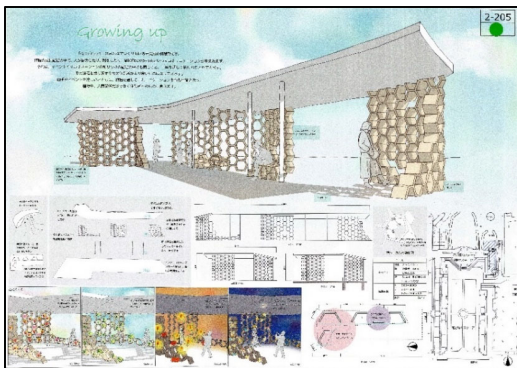
住之江公園は緑が多く日当たりがとてもいいので、できるだけ景色をながめられ、休憩所としての空間も出せるデザインにしました。計画地の方位がとてもよかったので日光がさした時に美しく、ゆったりできる休憩所を設計しました。

休憩する空間ですから、知らない人が前にいたりするとリラックスしにくかったりします。しかし1人だけだと少し寂しく感じてしまいます。そこで壁というのは設けず、人の気配が感じられるようなデザインにして空間だけを区切るようにしました。

佳作 「Growing up」

いっしき かの さかくち ひろと
一色 果乃・坂口 大斗

近畿職業能力開発大学校

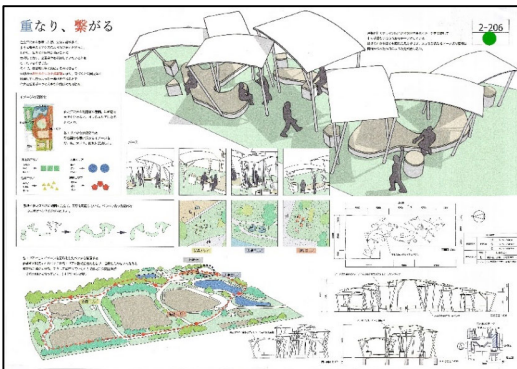


「Growing up」はみんなでつくりあげる未完成の休憩所です。植物の成長過程の中で、人が協力したり、話をしたり、間接的にかかわるといったコミュニケーションが生まれます。それは、イベントやイルミネーションの飾りつけの過程の中でも同じこと、1年を通して楽しむことができます。その過程を繰り返すうちに休憩所がより良いものになってきます。四季やイベントを楽しむとともに、植物を通してコミュニケーションを育む空間となり、植物や、人間関係だけでなく休憩所そのものも育ちます。

佳作 「重なり、繋がる」

たなか そうらん
田中 創雲

近畿職業能力開発大学校



住之江公園を散策した際、全体に緑が多く、まさに都会のオアシスのような公園だと思った。しかし、公園の利用者が場所ごとに分散しており、公園全体を利用していないことをもったいなく感じた。そこで休憩所のみで完結するのではなく、休憩所が各場所を接着剤になり、気づくと公園全体を利用してしまうような仕掛けを作ることで、住之江公園が一つの大きな休憩所になる提案。

奨励賞 「appointment」

もりひろ たおと
森広 多雄登

大阪工業技術専門学校

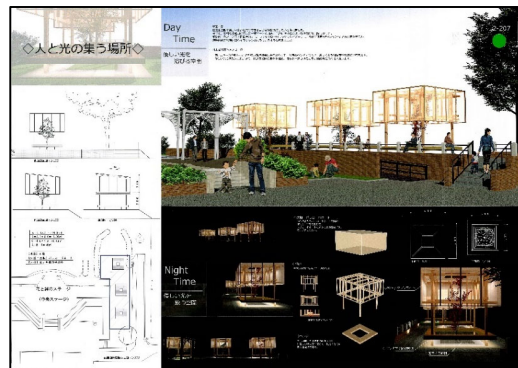


脱炭素社会に向けて主に木材を利用している。敷地調査をしたところアーチ状のものが多かったので、周囲との調和性を持たせるために屋根をアーチ状にした。折り畳み椅子を持参している人がいたので椅子やベンチを設置した。防犯の面も含め夜間でも安心して利用できるように街灯を設け、見通しの良い配置計画にした。この休憩所を待ち合わせ(appointment)の場所として利用者には使ってほしい。

奨励賞 「人と光の集う場所」

わだ ともひさ
和田 智久

大阪建設専門学校



住之江公園の美しい自然と共存できるような休憩所にしたいと考えました。そこで、木材を半透明のポリカーボネートで囲み、自然に溶け込むような休憩所を目指しました。形状は、住之江公園で開催されていたランタン祭りのランタンをイメージし、夜は半透明のポリカーボネートからこぼれる光が公園を照らし、建物自体が公園を照らすランタンになるように考えました。

奨励賞 「LEAVES」

にしな みゆう
仁科 美優

中央工学校OSAKA



現地を訪れた際、1人で散歩したり、犬を連れていたり子供を連れていたり、大人数というより1人が2人で時間を過ごしている人々を見ました。その光景をきっかけに“パブリックな空間におけるプライベートなスペース”をコンセプトとし計画しました。落ち着いて周囲の目を気にすることなく公園の景色を楽しめる、そんな場所を作ろうと思いました。計画地横にある樺に着想を得、木から落ちる葉を思わせるデザインにしました。